

# 蝦夷常用集

一

247

庫 文 閣 内			和 書
五 八 一 架	七 七 九 八 冊 號		

庫 文 官 政 太			書 門
八 九 冊 架	九 八 八 冊 號	七 七 九 八	

内 閣 文 庫	
番 號	和 7798
冊 數	8 ( 1 )
函 號	178 248

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM, Kodak



號

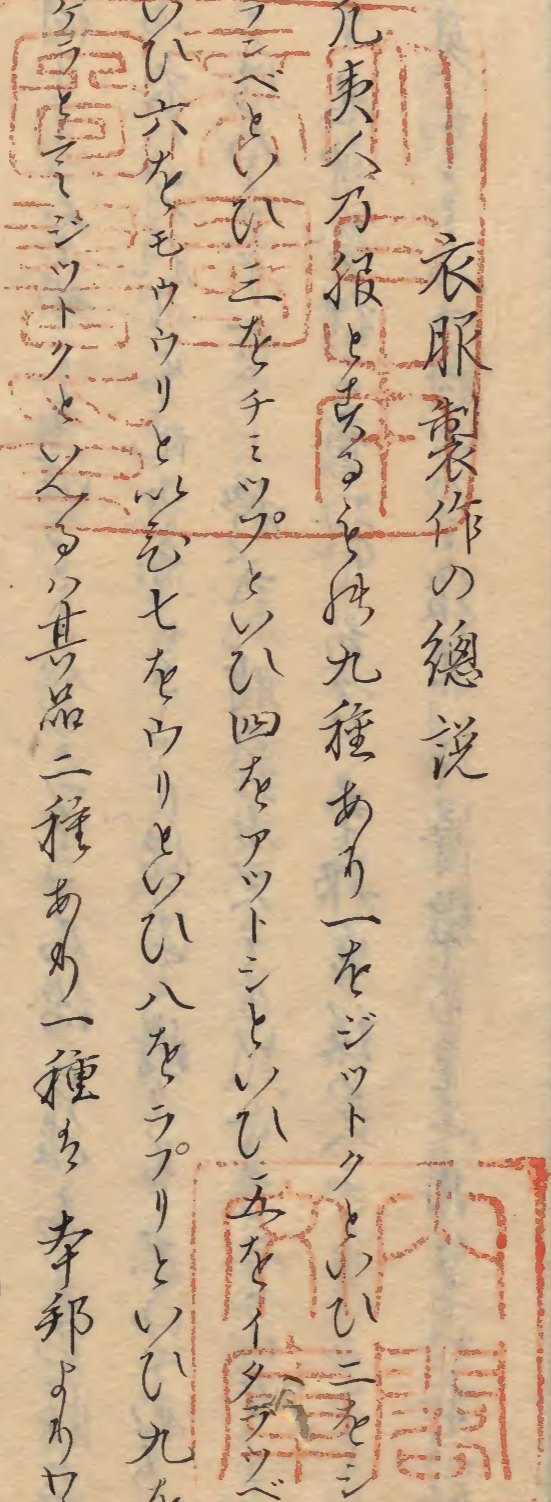
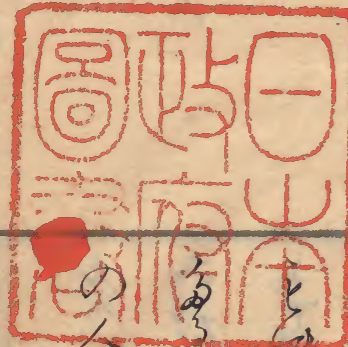
人

17

明治十年啓

衣服製作の總説

凡夷人の服と云ふは九種あり一をジツトクといひ二をシマ  
 ラニベといひ三をチミツクといひ四をアツトシといひ五をイタラフベ  
 といひ六をモウウリといひ七をウリといひ八をラフリといひ九を  
 ジツトクと云ふは其品二種あり一種は幸邦より來り  
 る所のものあり錦縞を以て製し一は陣羽織を以て製し  
 と云ふは一種を以て錦縞を以て製し一は陣羽織を以て製し  
 一はカヲト島小携へ來る獸皮といふは此と交易するよし





心を著しカをいひてみ尤甚し一の二種のうちあも口者くア  
ツトシの方をわそんたるまわく夷地をいふく男女も平  
日其後く前山をせし鬼神祭祀の時あるを貴人謁見の時  
とよの禮式小ジツトクシヤラベチニツプ三種の衣あやこのと都  
このアツトシの人を服用するをありそ此外鳥羽獸皮とふ  
く製衣せし衣をくく禁断し後たるあをゆるす  
凡そ此衣彼の申機持たるをくくをくそと鳥獸の羽  
皮とあく製衣する城術とく禮式もくく時不後  
用する衣を製衣禁をくくけをくくなやく邊辟を莽の地

あありてらいつあも尊く人き出せぬありそ左衽せるを  
戎狄の屬とらそむと尤く然るくは教とふとのな  
き地あはそ人く小兒とこと都の聖物と左衽の便ある  
この右衽右子の便あるは右衽昔形くく  
お蝦夷のくちまはあはたはかゆるあもあはゆる右衽を  
くもはあなり若教化の明はひくくく魔然とく  
本邦の人物とあはく何れ物々あは死  
右九種の彼のくちま上下結ぶるありくくのくく  
この書よそ圖を録せんとすく九種のくちま蝦夷







中ふあそ夷人これをもろとむる事とてと艱難の事  
とせりとのをら巖を積雪の比おしりて山中の遠路  
とてふとの道高低崎嶇たると路も平らあり歩行  
ありやとせりとをあらて深山あり数日と行て山中お目を  
おぬるうめりおぬる外夷人男女とも平日何事  
おはせりて山中おしりてありとも路の事とておは  
紙をつめを 乃ちとひとせりてつねとておは  
とて糸皮を剥くとて糸皮をきり中乃糸筋の通りよき  
とて糸筋をえりてひととせり

マビウの皮を糸皮をきり指をのりてつとてとせり  
麻の毛をかきとておはあり

これをおしりておはせりてとておはありとておはありとて  
糸筋ありとておはせりて温泉おしりてとておはありとて事後の  
圖の毛



アツヲンの圖



Vertical columns of handwritten Japanese text in cursive style, likely a commentary or description related to the illustration. The text is faint and difficult to read.



是園を剥きつりて一ツヒツの皮をいとふたふんとしてまの温泉  
 水はうーやちりふあすやあゆり園のまゝ温泉乃とろ流す  
 まあゆき浅瀬に皮を織ひて之を木をのせ流れる  
 とふあし日敷四音大いつけ墨をそは皮のまゝを  
 糸ちちをまゝゝ温泉をいゝ湯のあるをくと洗ひおと  
 して目ふさつていゝこれをアツチとていふアツトシを織る木は皮を  
 いひちのやまをうふあふと織ひてアツやうか小那るをい  
 ちとけりわちちとゝ温泉あひて目ふさつしていふさうを  
 まあちりまゝ織つりしの夷人もあつてこれをふつあをたぐ

是に重事糧食のそれへを引おくやとせらるるありけり  
 皮をやむらひふたえとせらるるありけり温泉あり地をくわむふ  
 と紙湯ありつねあり池沼とふひひる事つれた皮の中を  
 起あり起申おかくちあまをふさき遠方の地とつともありけり  
 温泉のあるとあゆふありゆきとひるは也その辛苦せらる  
 ありひるを之しす魚く皮を剥ありつむるありあまをすあり  
 わさき夫人男女の己つち解とありけりも為とつ之ともあり  
 けりるあり後のとつち女子の業とつちありけり

温泉あり地をくわむふと紙湯ありつねあり池沼とふひひる事つれた皮の中を

温泉あり地をくわむふと紙湯ありつねあり池沼とふひひる事つれた皮の中を



アブンカルの圖

Handwritten text in vertical columns, likely a description or commentary related to the illustration of a person sleeping in a hammock.

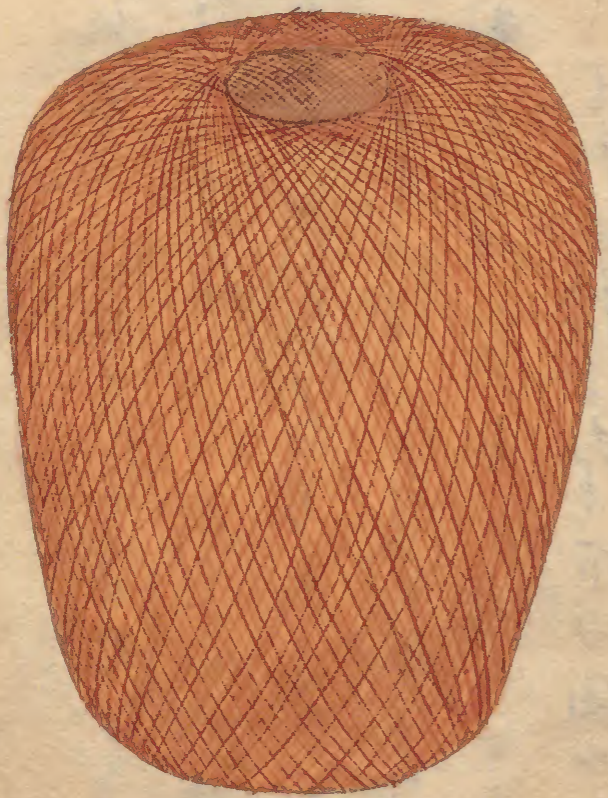


Handwritten text in vertical columns, likely a description or commentary related to the illustration of a person sitting and working with a spindle.





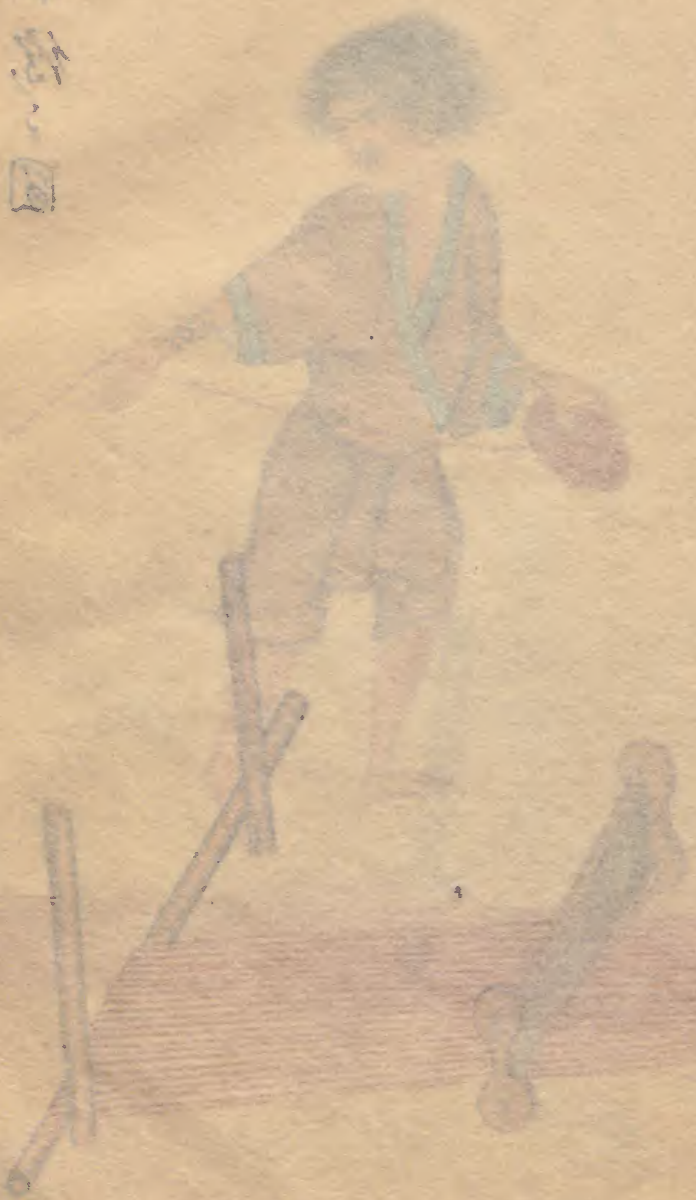
カタクキの圖



カタクキの圖

こは圖を前ふとせしとく岐頭の本千す起る糸を玉の作  
 ましきと都の

本邦の語小糸越圖のあしすきつとでたるを玉と之り  
 あはちカタキと稱すカタキをカタキとつる越畧はる  
 のおと葉うしとカタキをいひたまを玉をいひきつ  
 る事をいひいとをたす中法とるといふとすありあはれ  
 ちとすつしと越製をすれしとすかりゆめと云これ  
 是の越いとをいしとすれふ線るあし下の圖のし



こは圖を前ふとせしとく岐頭の本千す起る糸を玉の作



とくし小塚の図

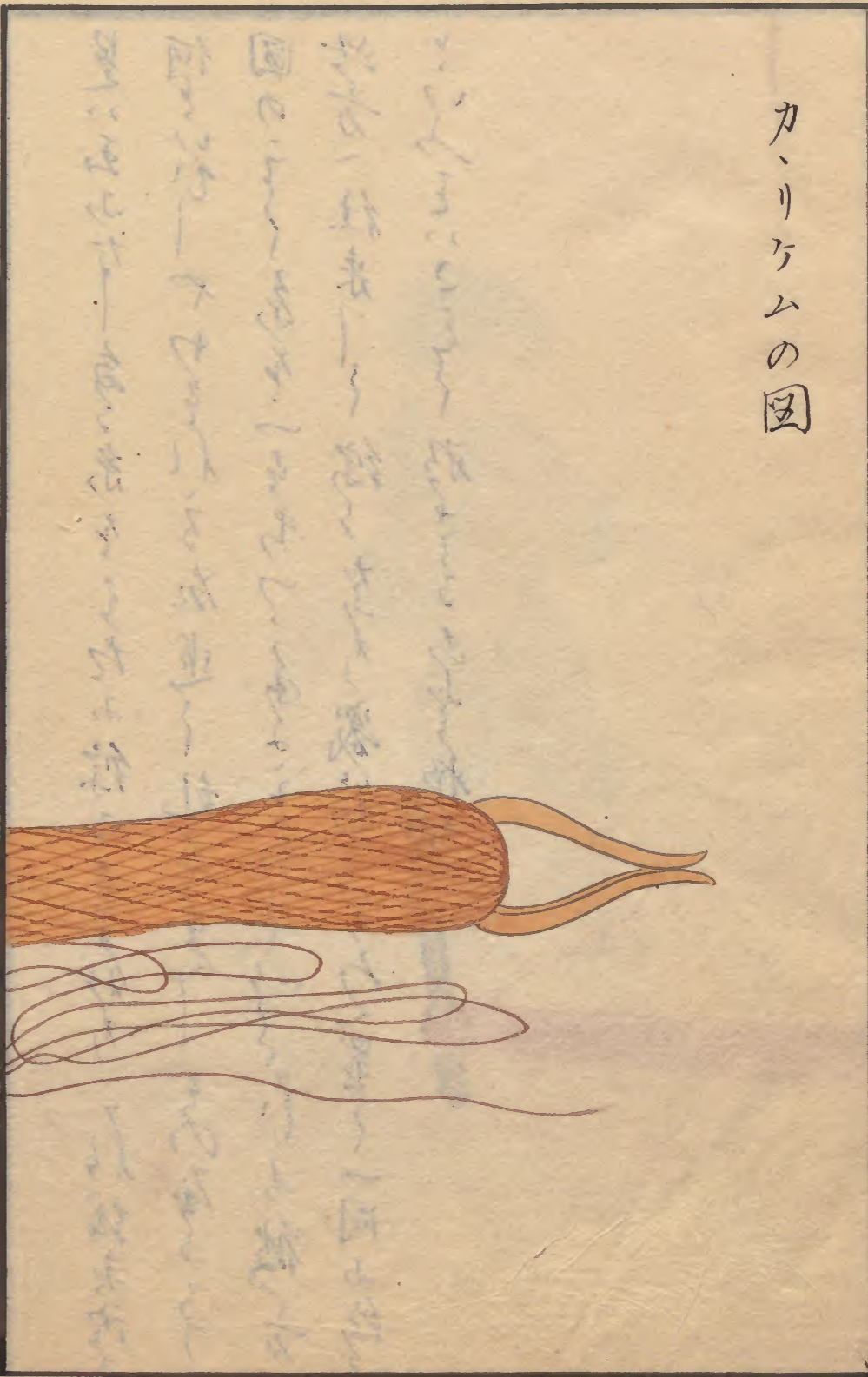
幸邦の活小糸絙の図

A diagram of a textile machine, likely a spinning wheel or similar device. It features a red horizontal band with threads passing over it. A wooden frame with several vertical posts and a horizontal beam is shown. A small wooden component with two circular ends is positioned on the threads. The background contains faint vertical lines and some illegible text.

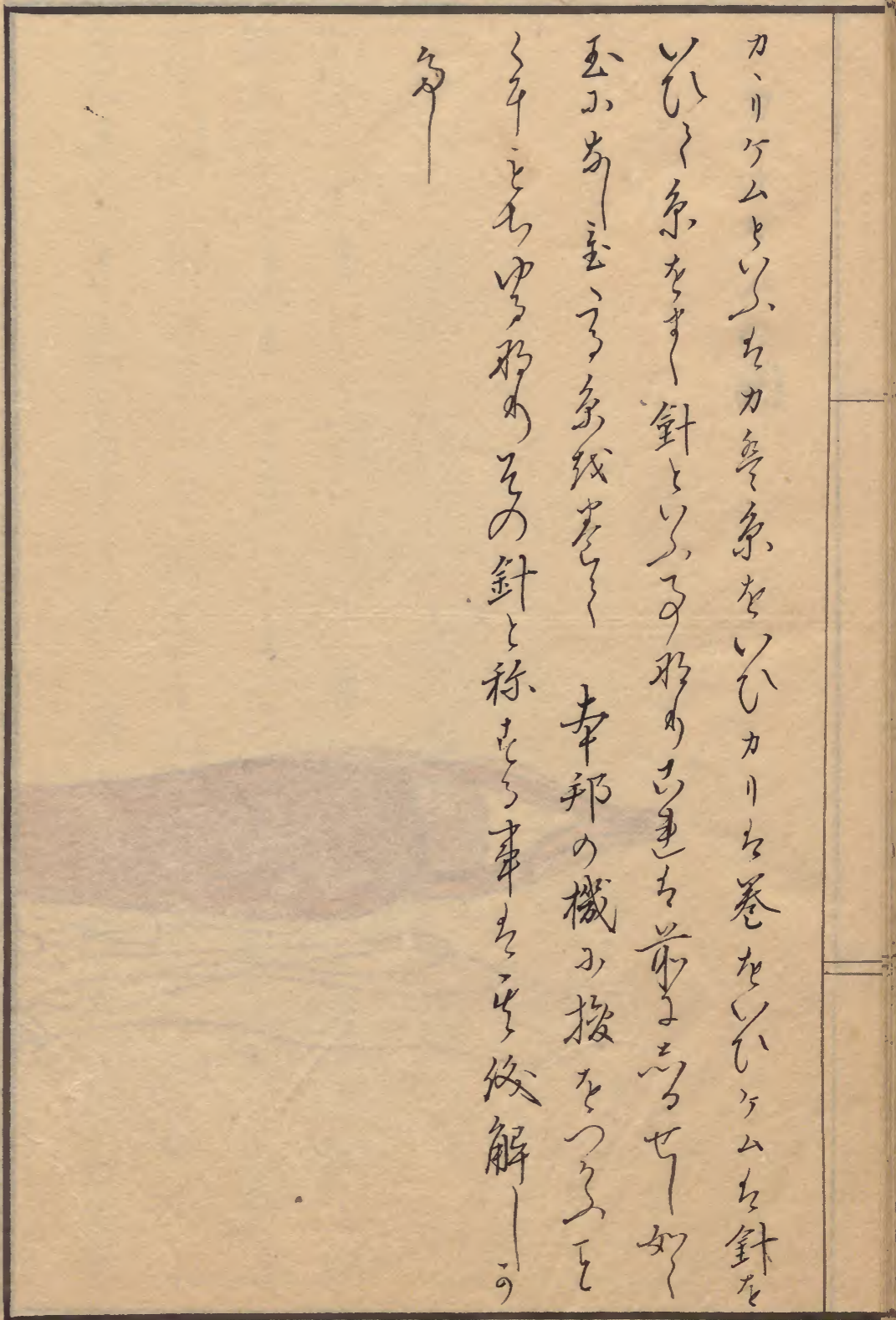




カ、リケムノ図



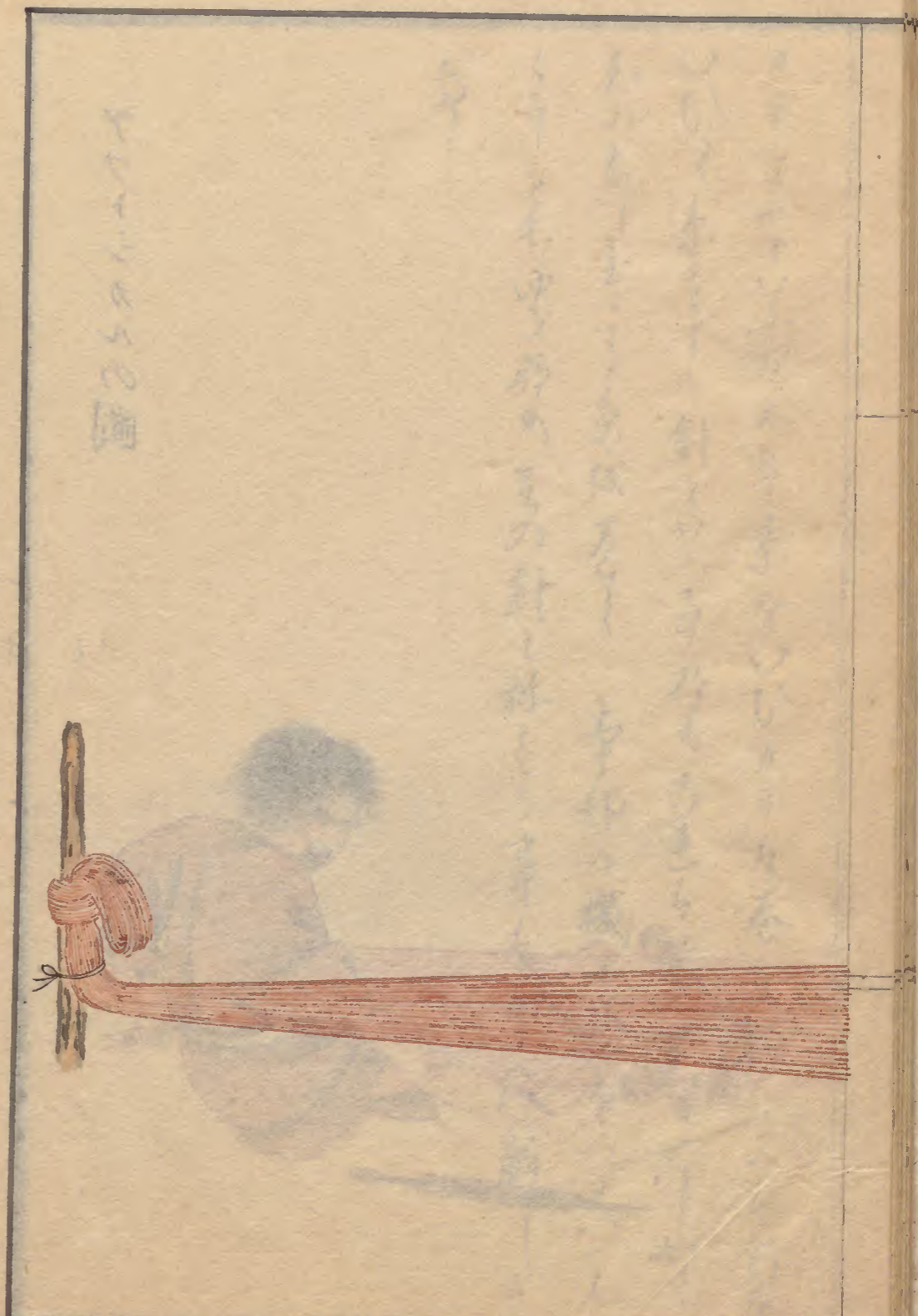
カリケムといふはカキ糸をいひカリを巻をいひケムは針を  
 いひ糸をいひ針といふは形ありき連ち前よりいひし如  
 玉ふち糸をいひ糸紙をいひ 幸邦の機お撥をつふと  
 くることあり形ありその針と称をいふ事ありて候解し  
 可なり



アツトシカルの圖



是れ糸織線と云ふものひくくあり織る糸織る図一多し也  
 アットシカルと云ふアットシを云ふあり製する所乃衣の名  
 ありカルを造るむと織りひくくアットシを造ると云ふ事あり  
 中アットシシタイキとも云りシタイキと云ふ事あり糸織る糸織る  
 語よりつと云んくアットシを云ふと云ふ事あり  
 糸織る糸織るの事細く此圖の事あり一は糸織る一は糸織る  
 打と云り 糸織る糸織るの事細く此圖の事あり一は糸織る一は糸織る  
 故別糸織るの部の中織る具を分ちて云ふ一は糸織る一は糸織る  
 置り合せしむ一



アツトシカルサケンの図



是圖ハアットシを織りあげ

あるさぬちうアットシカルヲケレ

といふはアットシカルを前ふさぎ

やうにわたりくヲケレた終るおとみ

アットシ造る事終るとさうの也は終

織りあやたるまはアットシをウセフア

ットシといふはウセフを純色とさうとさう

かく織りあげたるまはアットシといふは終る

幸邦の語平本綿の織りたるまは何の色も染る



白本綿といふはアットシの織りあやたるさぬ圖の如く下の

うの幅を換へたるまは上の方の身衣とあやたるまは

さぬ幅を換へたるまは下の袖とあやたるまは右幅を換へ

織る也さぬ幅と袖幅とにわたりたるまはトシヤト

いと称すトシヤを袖をひいて切る事をさうとさうと

さうとさうのまは又衣平製をさうとさうの長短もさうと

著る人のうけをさうと定め置く少の餘尺も終るま

平織る事也

アットシウカウカの図



アットシウカウカと云ふは

ウカウカを縫ふ事をして

アットシをぬふと云ふ事也

これに前ふたをせらるゝは

きり人のつゝあまのあま

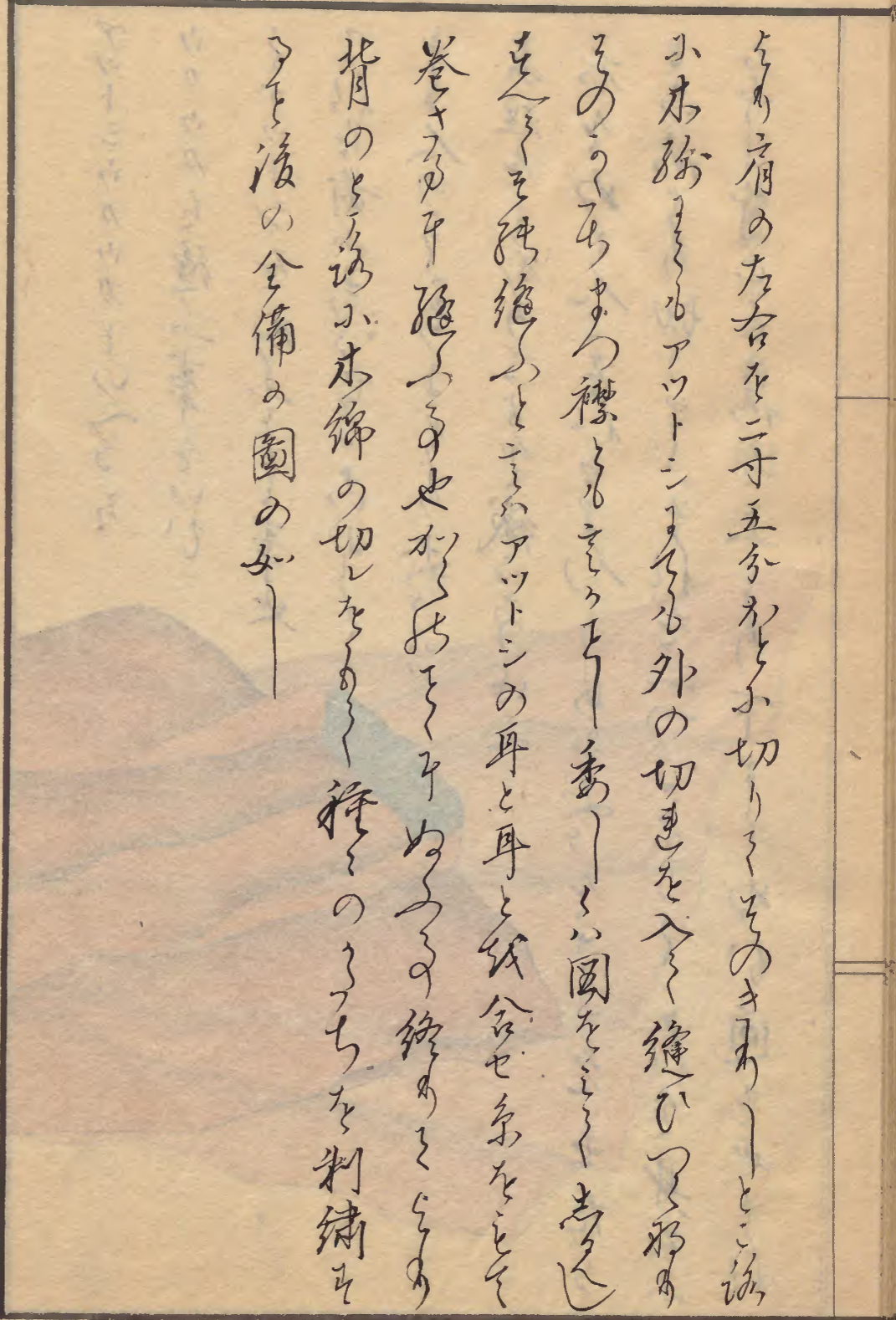
長短をわかれそよを織るのゆへ

衣をぬふをいふは

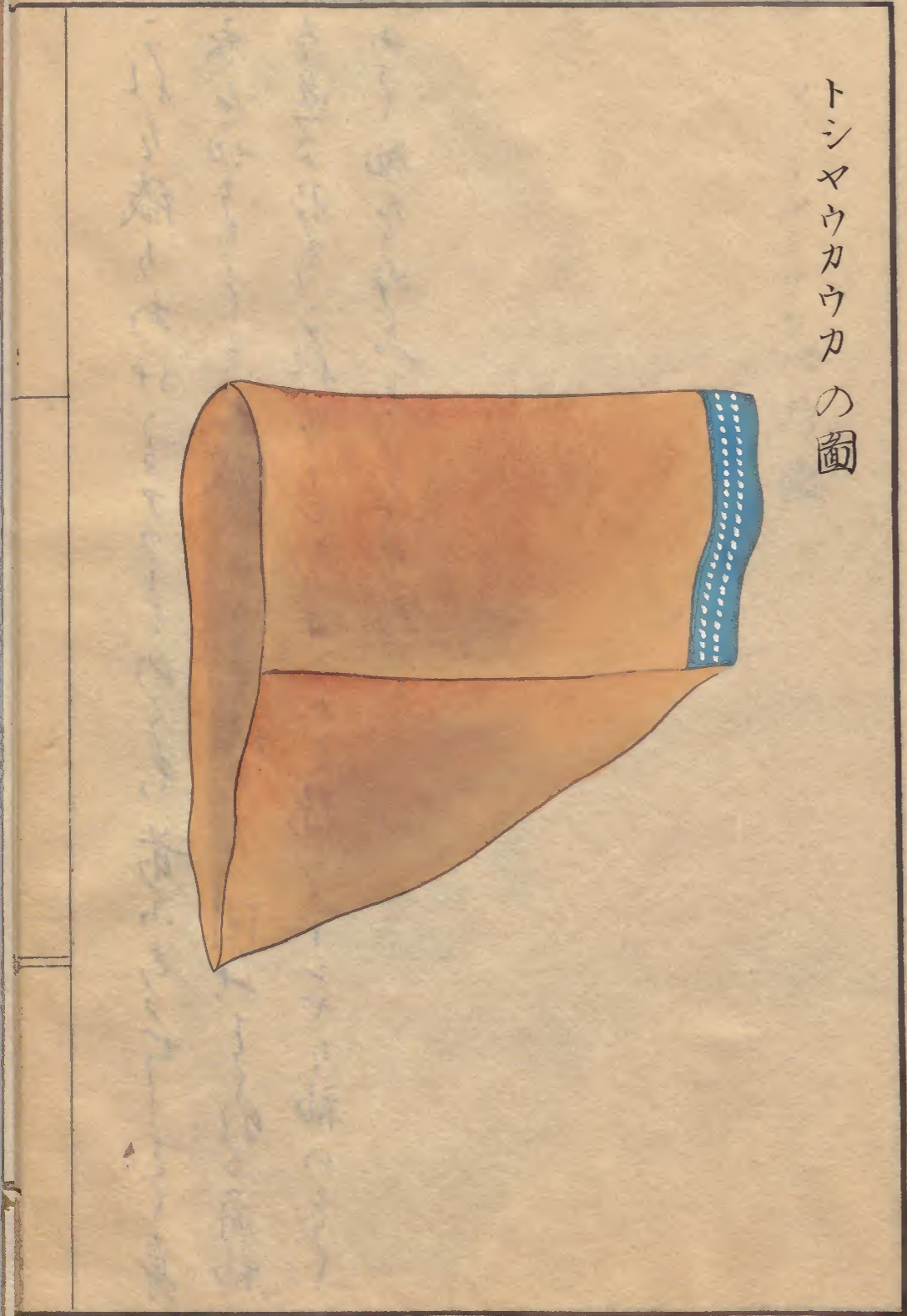
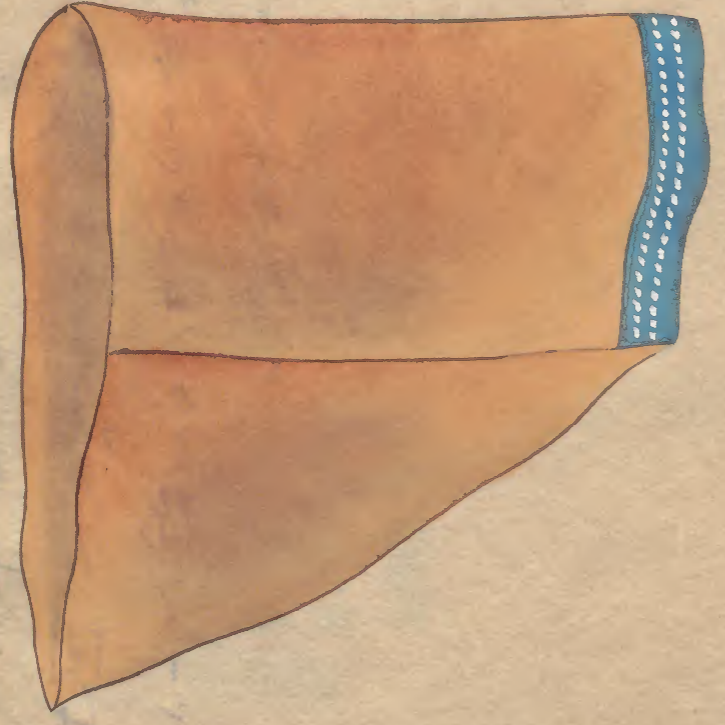
と云ふは

たゞ一背のとこを

左の肩の左右を二寸五分をふ切りそのまゝと  
 小糸縫いもアツトシも外の切まをへ縫ひつゝ形  
 そのうらまの襟もまゝと一垂し一圓をまゝと  
 是より縫絶つとこゝアツトシの丹と丹と紙合せ糸を  
 巻するも千縫ふも也おれまゝとぬるも終めと  
 背のまゝ縫ふ小糸綿の切まをへ縫ひつゝ形  
 下の後の全備の圖の如し



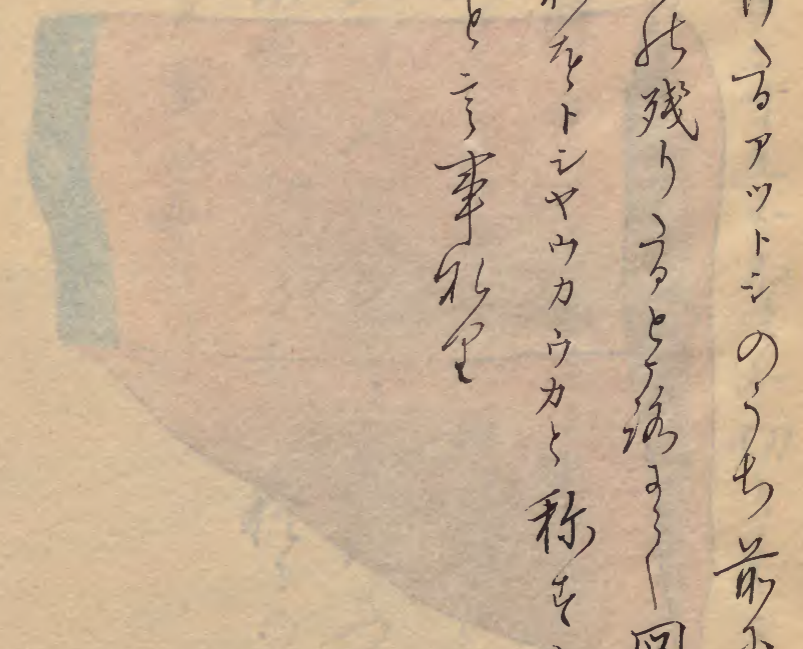
トシヤウカウカの圖



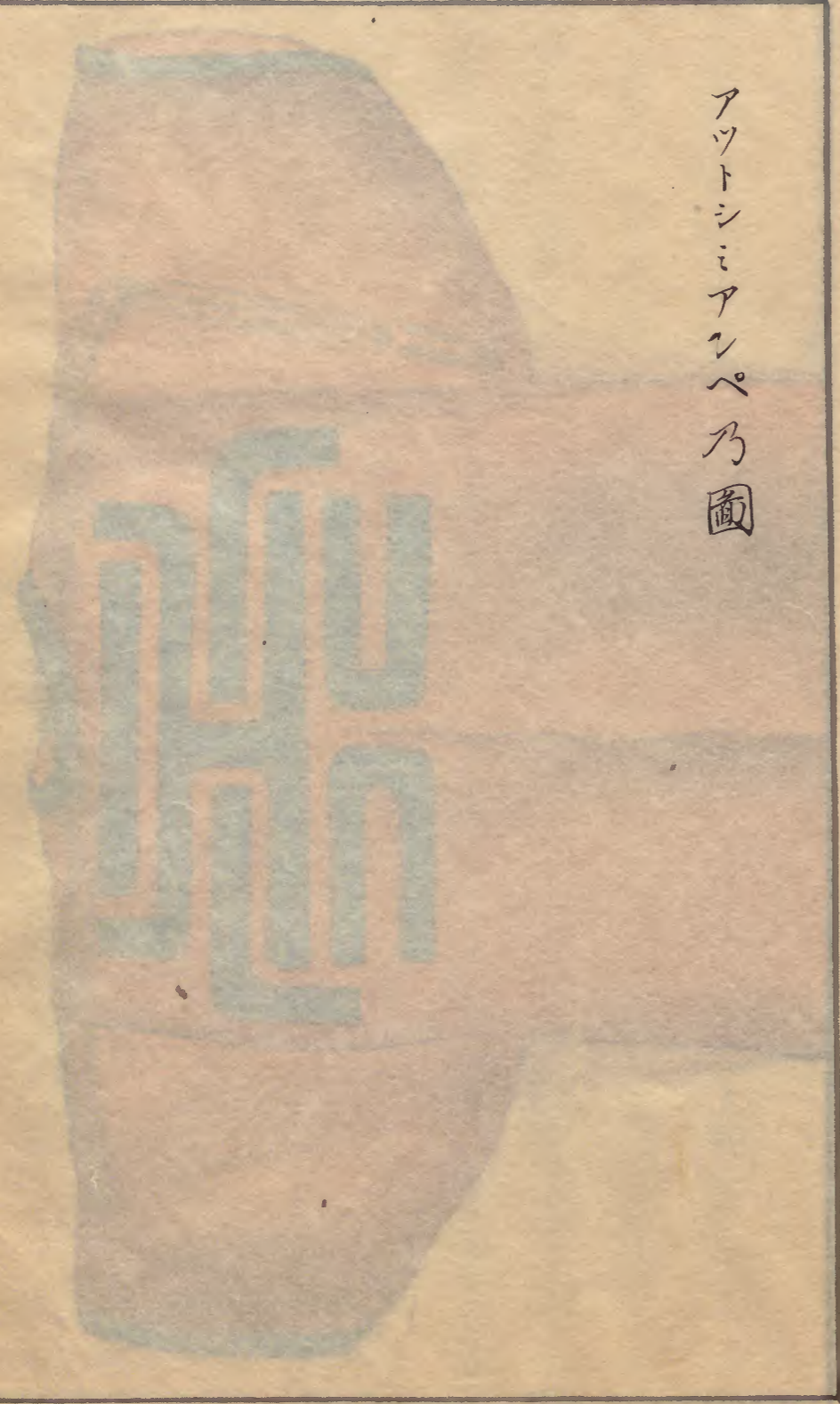


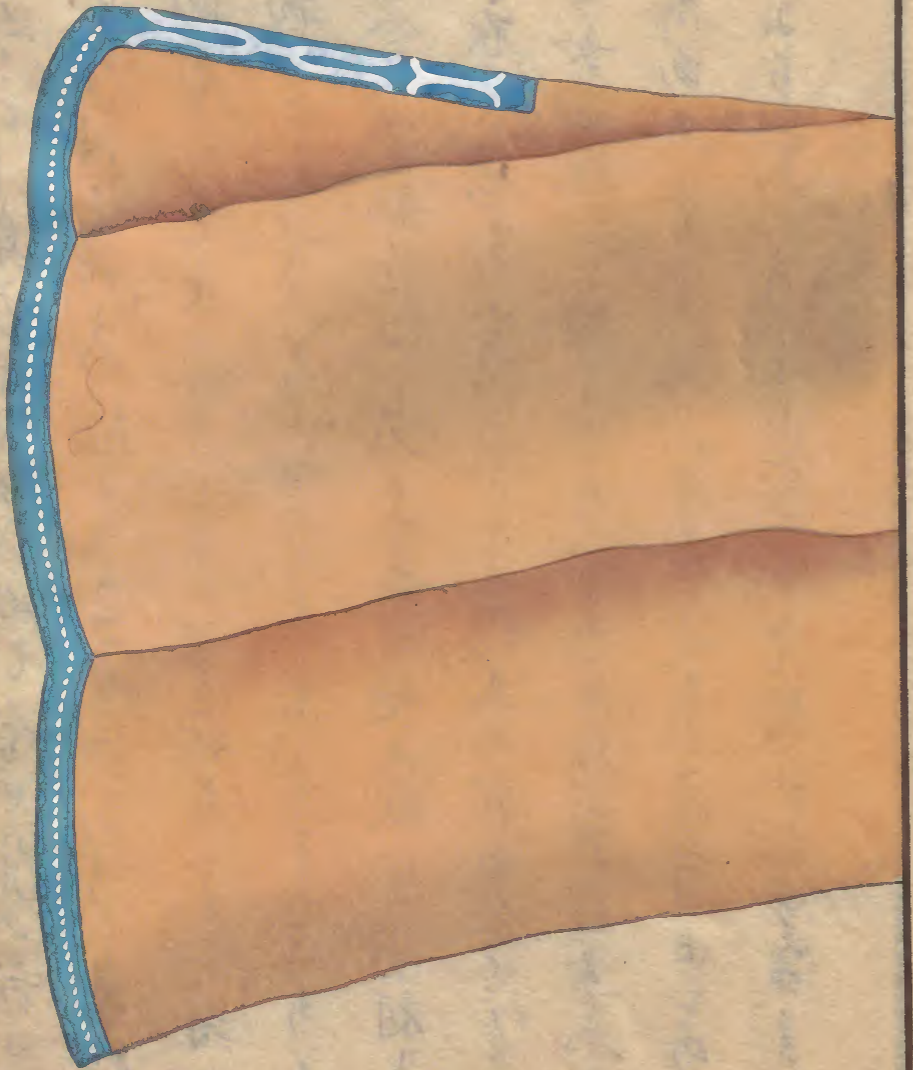
二、此を織りあげたるアツトシのうち、前ふたせし、まゝ身  
 衣を切りぬり、まゝ残りたるを縫ひ、圓形を縫ひ、袖  
 を縫ひ、おろし、此をトシヤウカウカと稱す、トシヤウカ袖のこゝ  
 おろし袖をぬり、まゝとす、事なり。

アツトシのこゝを縫ひ、圓形を縫ひ、袖を縫ひ、おろし袖をぬり、まゝとす、事なり。



アツトシミアンペ乃圖



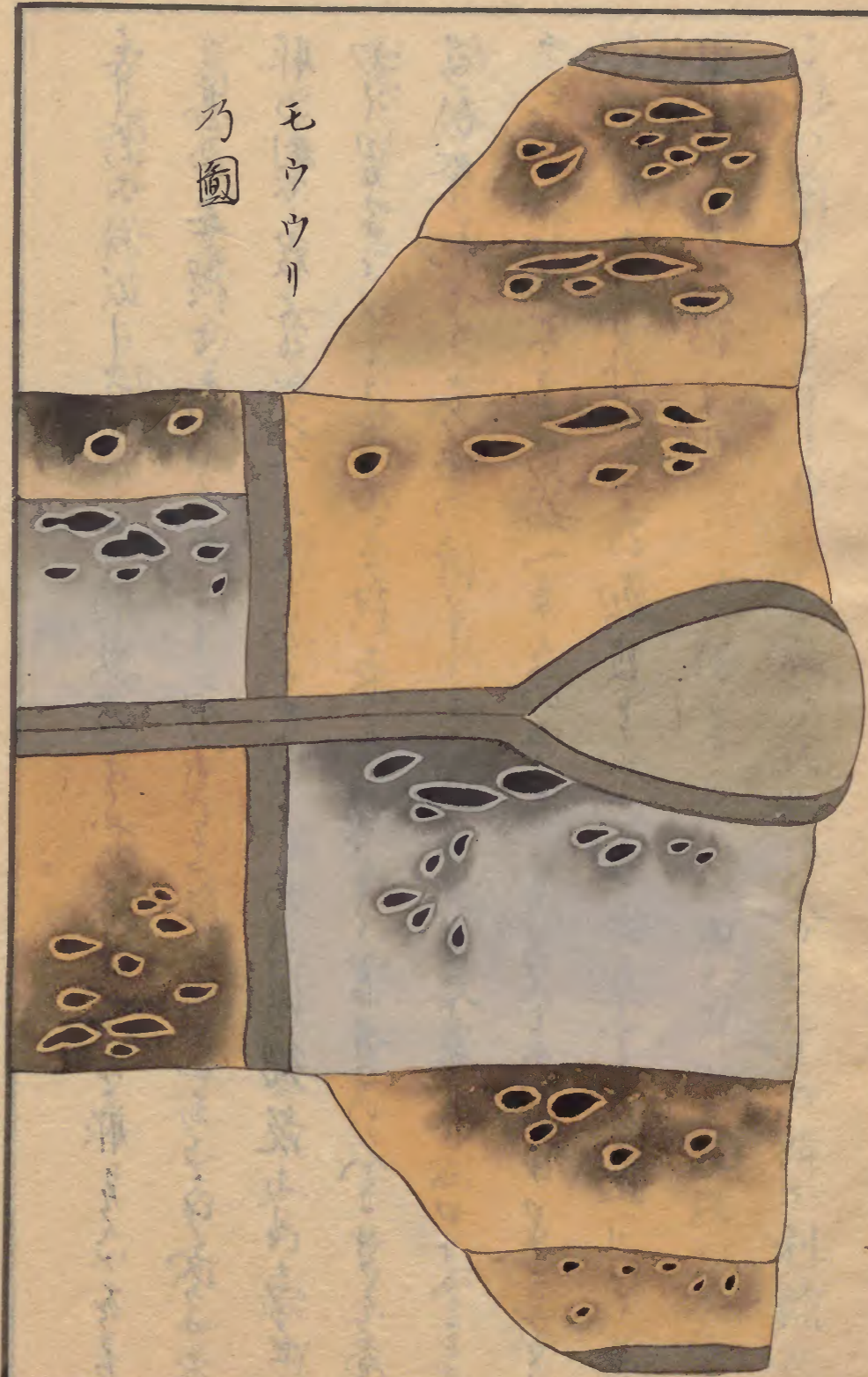


これハ前ハ志ラシク身衣と袖と袷ぬひ合セ背の所ハ刺繡の  
文をつけ其外袖と裾ハ縁ももろり成あり衣は製衣令  
とのひ一圓形ハ是をアットシミアンベと稱スシキ著るるハ袷  
ミアンベハ物と云ふありアットシのキツク考と云々都ハ是を  
此衣を夷人の平服と云ふものあり其他の獸皮鳥羽と云ふ  
製衣たる衣ハ格別ありたのひハ禮式の服の如ク平服と云  
ふありト平女子ハ時より下ハ多相獸皮と云ふ衣を  
著る事ありトもつれありト云ふアットシの衣を  
本邦の俗よりいハズありト云ふハ其を備ハ打つるも云ふ

ト志のらハ一ト云ハ鳥羽獸皮と云ふの衣乃みを服するを  
其の多禮と云ハ戒と云ハ形ハ其ハ嚴密あるハ女子衣  
服の製度と云ハ一ト云ハ女子の事ハ以テ總説ありト云ハ世  
如ク男子ト云ハも云ハ此衣を尊と云ハ官貴の人ハサハ  
及ヒ祭祀ト云ハ縁ハ其の時ハのキツクジツクシヤ  
ランベト云ハ其衣と云ハ一ト云ハ其の衣ハ此アットシの  
袷服用を其外の多相獸皮と云ふの衣と云ハ禁止ト云ハ  
用する事ハ一

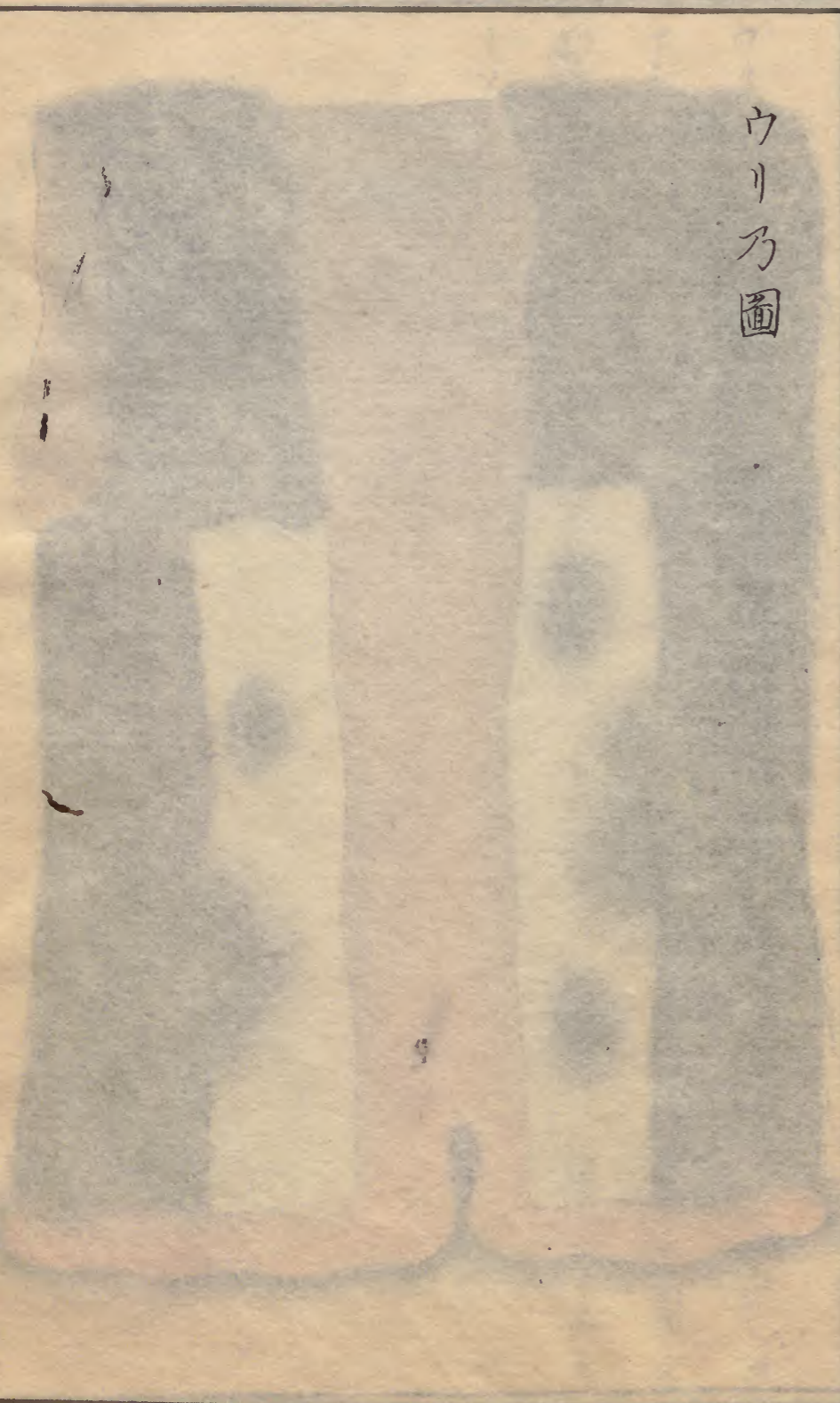


毛ウウリ  
乃圖



此衣も水豹の皮をぬい合せて造らる也是をモウウリと  
 稱すモウとハニツあるもの一ツハあやうある事を言ふ  
 本邦の語ハとも形と言ふ如く是れも夫人の夫婦の事を  
 もモウとシテありウリと云はる衣の上は形を此制にシテ外  
 求衣と云ふはひく前縁と云ふは左の裾より下までひくと  
 ぬい合せ袋の如くつく事た多ある此形は裾ひつゝあいたる  
 求衣と言ふ心ありわくは裾をさる形なり是形のたういたるをハ  
 外の求衣の圖と合せしむる一は是も夫人のうち多る女子の  
 下着お用する形也

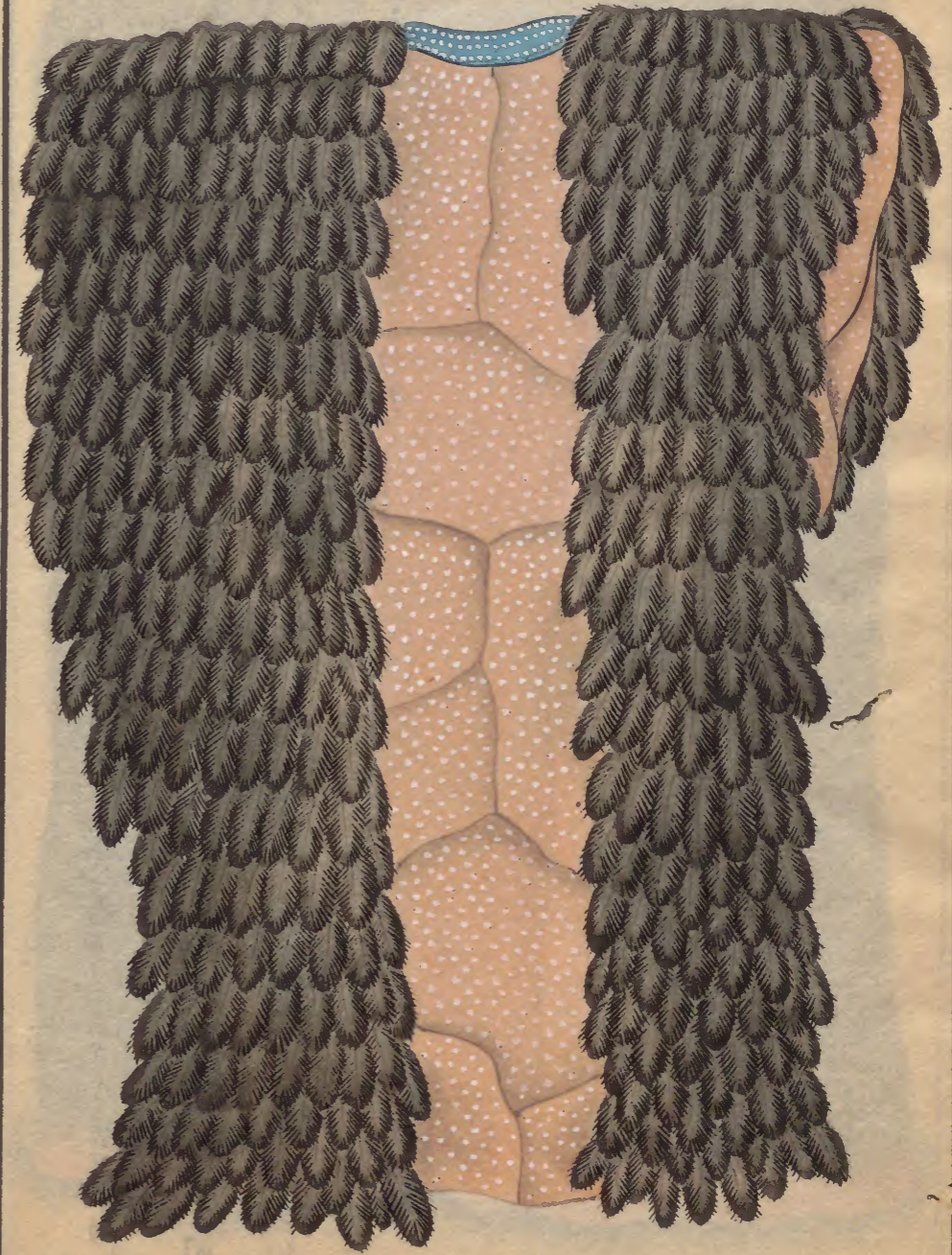
ウリ乃圖





ウリといふは、この裘の事を言ふ。この圖は熊の皮を造りし、  
 ずゆりゝの外鹿のたぐひの獸をも、此皮を用ゝ  
 製せり。すゝのち、この裘とよむる事あり。此を稱し、ウリ  
 とす。是れ、交解し、うたし。

ラブリの図



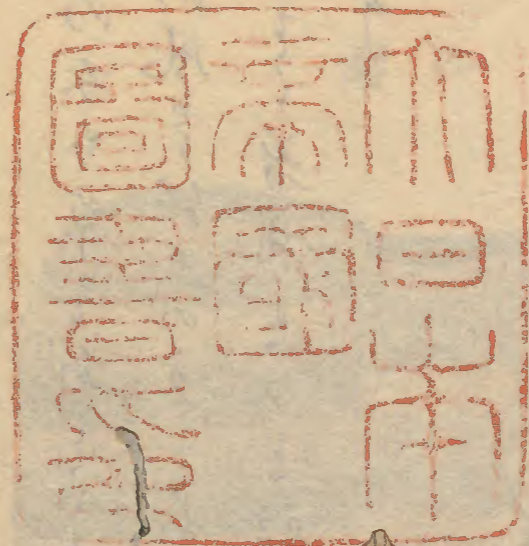
ラブリとは、是れも羽織の製法を衣と云ふ小圖にたる  
と、鳥の羽を洗ひて、その造りやうを羽をと  
り、皮をつまみ、またむき、ちりちりをいれ、枚も縫ひ  
合せて、造り形、鳥のみ、うま、つら、何等の羽、うつく  
す、その製法、うま、ちりちりをいれ、つら、  
ラブリと云ふ、其の製法、うま、

ケラの図



この衣を草を束にして造るなり此れを寒氣のつぎに  
詠風を張志のえきめなり 幸邦の人此み乃をとりふ  
りて着用するなりケラと稱するなり其の解一の  
なり





3/4

